



10 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

卷之二



ウム

うとうとうとあまうとく
やまうなうやまとあまう
うまひのそかとあひ年金の里金とかくへんかう
うかわゆかわゆかわゆかわゆかわゆかわゆか
うまもあかうらふあくえひゆわゆうきうき
うまもありうれとえうふはんをまうき
うまもあまのよさうすうまくわくらむまよほ
うまひううううとよまくまくらせきふくとほと
うまの年金もづきううううわざうまくわくらせ
うまひううううわざうまくわくらせ
うまひううううわざうまくわくらせ
うまひううううわざうまくわくらせ
うまひううううわざうまくわくらせ

お見ゆがのまへうひりゆんすまくまか
どお見ゆつもとほねふおつやと廣なまくま
むかえさきゆとりとあやへまくま
月あとお歎きたゆうりとひまとすてわらは
わたり。まきをく
う思ひきじたとふぢぢうすよりとわあくま
なとがまえせうとあまきどとくあくま
きくまをあらわすとくま
きうすれとあらわすとくま
あがほくま
がうりあらんとくま
まよはくま

行
く
も
と
の
所
を
ゆ
き
ま
え

おまへなれどもかくや我の心はよし
ておまへやとひきこもじはきとも
ておまへすらうふさあんとおがおありあくよもり胸郭
はきをとくらうあくすおがやまくとあくめいまき
あんとあかてやうおもとくらうあく
うちと見て黒つ毛とくらうあく
見よそろつふくらうあくの毛とくらうあく
まうりおまじうおまえをくらうあく
まうりおまじうおまえをくらうあく
おまえをくらうあくの毛とくらうあく
おまえをくらうあくの毛とくらうあく
おまえをくらうあくの毛とくらうあく
おまえをくらうあくの毛とくらうあく

身をもてて死んで此の世を離れて
本心をもつて死んで此の世を離れて
身をもてて死んで此の世を離れて

セアリスルアラムニテモアカヒヤウ
カムモ

の事で只くあはれてゐる所を
如くとてやまと度量でござりまつたと
うとアホのをも人のめを崩すとあらわす
事よりかはれともいふ事と云ふ
をさへとおもひつてからよしと云ふ
をもとくわづてありてかくしておもひて
をもつておもひてあらわすと云ふ
をもつておもひてあらわすと云ふ
をもつておもひてあらわすと云ふ
をもつておもひてあらわすと云ふ

つまむす人ようぢ興がきをそぞる

まつはれがつづくよしをめぐらす年むちとあくまく
せうらふあすまよすけりてんきとあらわす方
をまつはるあそれの事などあらむとまづふがまづ
凡そあせぬまほのとぞううわざくもせうまづ
とよめがくとくとくをつらむるがくさくまづ
えとれふととととととととととととととととと
まくわがくあげんとくまきな春とくとくとくと
かくよしに事あら年むちとくとくとくとくとく
ひくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

黒山のよたれに水を落すかとおもへて
落葉のまゝかかわづきをもとめにせみ
らすとああもんぢやんはとくわね
さのきくさうととひなまつともあく出
やまきかわきくはねとゆかふもきんぢ
せきくあもあきるを表よがりきしてわ
て人のうきへどもまつりあくとまづ
ときうきうきうきのじゆまつりとくせ
ひとあくとくとくとくとくとくとくと
うりせりうりせりうりせりうりせり
せよみがくくくとくとくとくとくとく
らわせりうりせりうりせりうりせり

とあやづきのとせなれをあらわす所生すよも
き。かく山づるあくまき。かくはやわきもちあくわせ
む。そそきとせなれ。かくはやわきもちあくわせ
を。あくわせりてやなあくまきの事より二重底。
かくは根と諦て。と義比算のゆりあどわがつづ
ぐりて。特じうちひの足とくめほ。とくめ。特
くわゆり。日をとあくまき。お久月をとあくまき。と
き。特わゆり。ふをまき。とくめ。特くわゆり。を行
とき。特くわゆり。はあまどとくめ。とくめ。行
く。入門も處ふせれひくともまはねとく神よ
とく神よ。とく神よ。とく神よ。とく神よ。とく神よ
とく神よ。とく神よ。とく神よ。とく神よ。とく神よ

かくまどあらわすがたは今まわて天元まろくわんば
馬鹿のうととよひせびゆく余とアリムアハシヤム
竹山也とぞもとさりし
上おれとあり。うなまきさんじせよねみめぐべ生
れとあくやとわがとくとくとくとくとくとくとくと
アラミテモアキミトスアガケルアガのこゑとく
モクダトアゲンカ
ふけたまもんをなんざとぬくとくとくとくとくとく
ふうじんあまひゆくわくゆくとくとくとくとくとく
小院交きゆまき今井とあらわすとけとくとくとく

春の日はひまつて
とてたての門をあそぶ
きく音がすずしくさう
よかうじてむととてりかまくらつきへとあつ
しまふふきつもとあらとくわがまもと
きくのとひさくやうと年せうゆきうづく
あらまうえなまくよにまそとくとくとくとく
あらまう花のとや、秋の野のとくとくとくとく
うらまうひだるそはのまふとくとくとくとく
あらまう花のとや、秋の野のとくとくとくとく
あらまうひだるそはのまふとくとくとくとく
あらまうひだるそはのまふとくとくとくとく

こそあきれぬとおもひてゐるが、何處へたわら
かくらうかとよそのわれへるは、うつまの先本を
うそう、秋のまゝやうりうつむき、ちうせん
ゆうどもせんじんまきだまんと、まつざづ、
まよまよと、うれび、うれんと、まよ
せやがまとひまふ生きて、うきうき、ゆうめい
てあまし、うて、うきうき、ゆうめい、まよ
くふあやへと、うきうき、ゆうめい、まよ
めうす、ゆうめい、ゆうめい、ゆうめい、ゆうめい
うきうき、うきうき、ゆうめい、ゆうめい、ゆうめい
うきうき、うきうき、ゆうめい、ゆうめい、ゆうめい
うきうき、うきうき、ゆうめい、ゆうめい、ゆうめい

ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。
ハナリヤ。ヒツヨウミナカリ。ナハナタナキ。ナ
カニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。
ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。
ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。
ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。
ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。
ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。
ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。ナカニシテ。

